

2018年度取締役会の実効性評価まとめ

取締役会の実効性について、評価を実施。

代表取締役を除く取締役全員及び監査役全員に取締役会の実効性に関するアンケートを実施

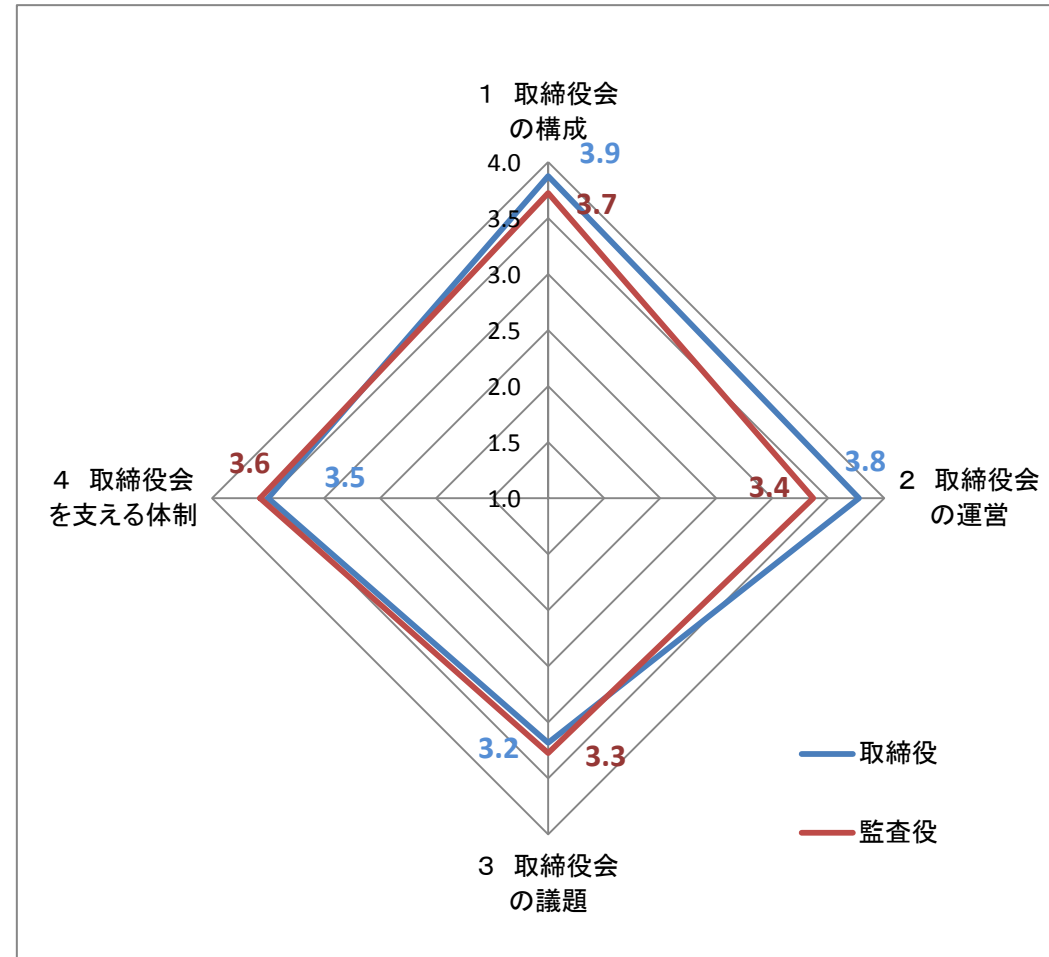
アンケート内容

1. 取締役会の構成（全体の人数、構成、多様性等）（全6問）
2. 取締役会の運営（年間スケジュール、開催頻度等）（全10問）
3. 取締役会の議題（議題の選定、内容等）（全11問）
4. 取締役会を支える体制（情報提供、連携等）（全7問）
5. その他（自由記述）

アンケートの各設問は4段階で評価し、各項目ごとに単純平均にて数値化し、レーダーチャートに記載

実効性評価結果

	取締役	監査役
1 取締役の構成	3.9	3.7
2 取締役会の運営	3.8	3.4
3 取締役会の議題	3.2	3.3
4 取締役会を支える体制	3.5	3.6



2 取締役会の運営	取締役会の年間スケジュール、予想される審議事項	審議事項について、予定されている場合はできるだけ公表したほうが良い
	取締役に提出される資料の適切性	資料の整理と様式の統一が更に必要。電子化についても進めるべき
	取締役に提出される資料の検討時間	検討時間が十分取れていない場合がある

3 取締役会の議題	中期経営計画	中期計画のローリングが出来ていない。もう少し掘り下げた議論や、計画の質的充実ができる方が良い
	主要なリスク	項目毎等による整理、論点の明確化が十分にされていないと考えられる

評価全体の結果としては、各取締役、監査役ともに概ね問題はないとの評価。社外役員にも平等に意見を述べる機会がある点について評価されている。ただし、上記の通り、各設問について今後検討すべき課題が挙げられた。

取締役、監査役とで評価に差が見られる項目として、「2. 取締役会の運営」の取締役に提出される資料の適切性、検討時間に関する項目が監査役で評価が低い傾向がみられ、「3. 取締役会の議題」の経営陣の報酬、選任・解任に関する項目が取締役で低い傾向が見られた。

取締役、監査役ともに評価が低い傾向が見られる項目として、「3. 取締役会の議題」の中期経営計画、リスク管理に関する項目、が挙げられる。今後の課題として検討が必要と考えられる。